

JLEM News Letter Vol.45



第50回日本語教育方法研究会開催

発表 79 件 参加者 206 名
第 51 回は国士館大学にて

2018年3月24日(土)、第50回日本語教育方法研究会/25周年記念大会が名古屋大学(愛知県名古屋市)で開催されました。衣川先生、俵山先生、そして名古屋大学の先生方、学生の皆さん、大変お世話になりました。

前日3月23日に運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

次回の第51回研究会は2018年9月8日に国士館大学町田キャンパス(東京都町田市)において開かれます。みなさまふるってご参加ください。

開催を終えて

俵山 雄司
(名古屋大学)

第50回研究会は、2018年3月24日(土)に名古屋大学で開催されました。JLEM史上最大の79件の発表があり、朝からたくさんの方に来場いただきました。

今回は、この多くの発表件数に対応するため、会長、事務局と相談し、ポスター発表がいつもの2セッションから、3セッション(1時間を3

回)となりました。当初は、参加者の混乱を招かないか、また、1時間で十分なやり取りができるのか、など不安な気持ちもありました。しかし、研究会当日は、参加者の皆様、運営委員の方々のご協力で、予定通りポスター発表を進行することができました。あらためてお礼申し上げます。

また、今回は25周年の記念大会ということで、企画担当として、朝のイベント、そして記念ルームも担当させていただきました。朝のイベントでは、JLEMのベテラン発表者や優秀賞受賞者からの話題提供があり、記念ルームでは、初回からの参加者から今回初参加の方までさまざまな方のJLEMに対する「想い」の展示が行われました。参加者それぞれにとって、JLEMとは何かを考える機会となりましたら幸いです。

四半世紀を超えて、研究会を取り巻く環境も変わってきたと思いますが、変わらないJLEMの魅力というものではないかと考えます。今後の研究会も、引き続き、魅力あふれるものになることを願っています。

次回開催にあたって

栗原 通世
(国士館大学)

今回の研究会は国士館大学町田キャンパスで開催します。全国から皆さまをお迎えし、日本語教育にかかわる実践研究やさまざまなご報告がお聞きできることをうれしく思います。本学には3つのキャンパスがありますが、現在、留学生の半数以上が町田キャンパスで学んでいます。また、町田キャンパスでは2002年より日本語教員の養成を行っており、国内外で日本語教育の実践家として活躍する人材を少数ながら輩出してきました。昨今は在学中に国外の日本語教育機関に長期間出向き、日本語指導のアシスタントに果敢に挑戦する学生たちが増えています。本学はアスリートとして世界的に活躍する学生が多くいることでも知られていますが、日本語教育の分野でも学生たちは頑張っています。チャレンジ精神溢れる学生たちが集うキャンパスですが、最寄りの小田急線鶴川駅から路線バスに乗り換えて15分ほどかかる少々不便な場所にあります。周辺に飲食店はほとんどありませんので、昼食交流会にもご参加ください。残暑が厳しい時期だと思いますが、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

第11回 JLEM 優秀賞

発足 20 周年にあたる第 50 回研究会の「優秀賞」及び「奨励賞」は、以下の研究に授与されました。

「**優秀賞**」関崎博紀(筑波大学)「自然会話の特徴への気づきに効果的な提示方法の研究—中上級とゼロ初級の各レベルの学習者の対比から—」

「**奨励賞**」堀恵子(東洋大学)・大隅紀子(東京大学)・世良時子(成蹊大学)「質問作りの手法を取り入れた読解授業」

審査はこれまで同様、運営委員から選出された審査員、及び、会長・事務局、編集委員の 5 名からなる優秀賞選考委員会の討議によって行われました。

「優秀賞」の関崎氏による研究は、「自然会話の特徴への気づきに効果的な提示方法」を中上級と初級の学習者の気づきの内容を対比しながら分析し、その結果から、学習者のレベルによって気づきの内容が異なることや、事前の注目指示が有効であることを示したものです。誰もが一度はやりたいと思いつながらできなかったイノベティブなテーマであることや、今後実践研究への広がりを感じさせる内容であることなどが評価されました。

「奨励賞」の堀氏らのグループによる研究は、読解授業にこれまで第二言語習得研究ではあまり見られなかった「質問作り」の手法を取り入れたもので、実践研究を通じて質問作りが学習者の思考力を高め、内容理解を深める可能性があることを示したものです。現場のニーズを反映

した、文字通り明日の授業で即使える実践的な内容であること、活動のプロセスをフローという形で明確に見える化したことなどが評価されました。

受賞者のポスターは本会の HP でご覧いただけます。この賞が、会員の皆様の教育活動並びに研究活動を行う上での良い刺激になることを期待しています。

(篠崎 大司)

運営委員会報告

運営委員会は、研究会の前日の 3 月 23 日(金)に名古屋大学において開かれました。25 名の運営委員のうち、15 名の運営委員が参加し、参加できなかった委員からは委任状が提出されました。

今回の運営委員会で報告、審議されたことを、以下にご報告いたします。

① 会員数

2018 年 3 月 21 日現在の会員数は 662 名になりました。昨年の同時期より 48 名の増加となります。

② 次回研究会の開催予定について
次回研究会は、2018 年 9 月 8 日(土)に国士舘大学町田キャンパス(町田市)にて開催の予定です。

③ 運営委員の異動について

前回のニュースレターでもご報告いたしましたが、2018 年 4 月 1 日より、河野俊之委員が会長に、中川健司委員が事務局となります。また、それに伴いまして、衣川隆生、小河原義朗が退任し企画・広報担当委員となります。

④ 発表申し込み、会誌編集のプロセスの変更について

発表申し込みが近年 50 件を超えることも多く、会誌編集に従来よりも時間がかかるようになってきました。そのため、発表申し込みの締め切りを今後「日本時間 7 月 25 日 13 時」のように変更するとともに、原稿提出後の修正に対する期限を設定し、返信がない場合、編集委員に書式の修正をお任せいただいたものと解釈することといたします。

発表に応募される場合には、締め切り後、1～2 週間の間で確実に連絡が取れるようにご協力いただけますようお願いいたします

(衣川 隆生)

事務局よりご連絡

●会員管理システム登録情報の確認

2015 年 10 月に web 上での会員管理システム

<<https://secure.jlem-sg.org/>>が導入され、今まで郵送しておりましたニュースレター、発表申込案内、研究会プログラムなどの印刷物の発送は停止しております。皆様のお手元に届くのは会誌のみとなり、その他のお知らせ等は、

<jlem-ml@jlem-sg.org>からみなさまの登録 e-mail アドレスへ届けます。<jlem-ml@jlem-sg.org>が迷惑メールとならないよう、ご指定をお願いします。e-mail アドレスを変更する場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。

●住所変更等

JLEMでは、会員管理システムに登録された会員住所に会誌を郵送します。住所変更が行われない、あるいは宛名不明のため、会誌が返送されてくるケースがあります。住所変更等があった場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。

(小河原義朗)

その他ご連絡

○J-STAGE についてのお知らせ

JLEMでは、皆様の研究成果を広く社会にお伝えするため、研究会誌をJ-STAGEで公開しております。JLEMでの発表応募は、「J-STAGEでの公開の承認」を前提とさせていただきますので、宜しく願いいたします。また、以下の2点についてもご了承ください。

- ・編集担当委員が最終的な受理とした原稿を後で変更できないこと
- ・研究会当日に発表を行わなかった場合、J-STAGEの公開資料から削除すること

(寺嶋弘道)

ご連絡先を お知らせください

下記の方々は当日入会をされた方ですが、入会手続きが済んでいないので、JLEM日本語教育方法研究会 (<https://secure.jlem-sg.org/>) の「入会申し込み」より、申し込み手続きをして下さい。

なお、下記の方々の中に、お知り合いの方がいらっしゃる方は、恐れ入りますが、お伝えいただけますよう、よろしく願いします。

鈴木聡子 藤田恭子 王夢蕾

(敬称略, 5月15日現在)

●会費納入について

会費は年3,000円となっています。できるだけ6月30日までにお支払いただきますようお願いいたします。

「郵便局の電信払込」で以下にお振り込みください。

記号：10140

番号：69076511

加入者名：日本語教育方法研究会

振込者名：(氏名だけで構いません)

なお会費をお振り込みいただいた方で、以下の方のお名前が会員名簿で確認できておりません。お心当たりの方は事務局までお知らせください。

2015/09/19 日付け 3000円
振込み「大野 裕」

2016/09/23 日付け 3000円
振込み「フジタ キョウコ」

2016/09/24 日付け 3000円
振込み「鈴木 聡子」

2017/06/28 日付け 3000円
振込み「オオタカ ヨウ」

2017/09/16 日付け 3000円
振込み「王 夢蕾」

2018/03/22 日付け 3000円
振込み「東野 美里」

2018/04/19 日付け 3000円
振込み「鹿目 葉子」

(敬称略, 5月15日現在)

(長谷川守寿)

日本語教育方法研究会

問い合わせ先：jlem-ml@jlem-sg.org

(レター編集：本郷智子)

新会長就任ご挨拶

河野 俊之

2017年9月16日に開催された第49回研究会において、会長に選出された河野俊之(かわのとしゆき)です。会長就任にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

日本語教育方法研究会は、1993年9月23日に第1回が行われ、2018年3月24日に第50回が行われ、25周年を迎えました。私自身は第3回に初めて参加し、第4回に初めて発表しました。それから、第50回までに単独発表者、主発表者、副発表者として、それぞれ、21, 5, 5件の発表をしており、初めて参加した時以外は、参加できるときはすべて発表していると思います。これは、日本語教育方法研究会において最多発表件数だそうです。

「なぜ日本語教育方法研究会でそんなに発表できるのか」ときかれることがよくあります。それについて、いろいろ考

えませんが、結局は「楽しいから」しかないと思います。ほかの方の発表をお聞きして「なるほど、自分の授業でもやってみよう」と思い、実際にやってみて楽しいこともあるし、ディスカッションをして楽しいこともあるし、ほかの方々のディスカッションをお聞きして楽しいこともあります。発表することについては、「なるほど、そうすればもっとよくなるな」と思い、実際にやってみて楽しいこともあるし、ディスカッションをして楽しいこともあるし、ほかの方々が発表者の自分を差し置いて、勝手にディスカッションしているのをお聞きして楽しいこともあります。さらに、日本語教育方法研究会で発表することを考えながら、実践を積み重ねていくことは本当に楽しいことだと思います。

第50回の発表件数は79件となりました。研究会のさらなる発展を期待しておりますが、これ以上、発表件数が増えるのは大変だなあと思っております。しかし、その対応については、事務局の中川健司さんはじめ、運営委員の皆さんにお願いすることにし、より多くの皆さんに発表、参加していただけるような、そのために私も含め、みんなが楽しいと思えるような研究会を継続していきたいと思っております。